

だっこするよ

2024年12月



社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子

子ども主体の大きくなったねの会

街はもうすっかりクリスマスのイルミネーションに包まれ輝いています。園内のクリスマスツリーにももうすぐ、子ども達が作ったそれぞれのオーナメントが飾られます。とても可愛いです。親子で見つけてくださいね。

さて、先月の4、5歳組の「私達のSDGs焼き芋パーティー」には、多くの保護者にご参加いただき安全第一で無事に終わることが出来ました。心よりお礼を申し上げます。子ども達が、火起こしから片付けまでを協力して主体的に行うことが狙いでした。話し合い、役割を分担しながら協力していた姿に感動しました。子ども達を見守って下さったママ・パパ達のお陰です。大人チームの連携を見て、子ども達は嬉しそうでしたね。園運営は、保護者と共にあるという思いを強くしました。

そして、5歳児は待ちに待った新潟県村上市の米農家の板垣さん、篠原ライスさんが来園されてお米の食育を行いました。「お米は種で、種を食べているんだよ」「田んぼは水を貯めるダムだよ。田んぼが水害から街を守っているんだよ。お米をみんなが食べてくれるから農家がある。みんなが田んぼを守っているんだよ」と。30キロのお米を1日300回担いでいる板垣さんの逞しい腕にみんな嬉しそうにしがみついていた。

歳児別に「大きくなったねの会」のお披露目会を行いました。どんだんさんを憧れの眼差しで見つめてい

ていたぐんぐんさん、少し緊張気味ののびのびさんには、「大丈夫だよ」と応援したり、手を振ったりするどんだんさん、弟や妹を想う優しさが見え嬉しく感じました。

今回の「大きくなったねの会」も子ども達と「どんな会にしたいか」「何をやりたいか」話し合いを重ねて来ました。子どもの声を聴き、何に興味があり、何を表現したいのか、徐々に決まっています。

どの表現活動であってもそこには子ども達意思があり、皆が決めたことを楽しみながら、普段できないことへのチャレンジや協同の愉しさを少しずつ積み上げて取り組んできました。表現活動は、子ども達の大きな喜びです。信頼している保育者と共主体で取り組んでいくプロセス、12月のこの時期だからこそ取り組めて、互いに成長するのだと感じています。

保育者は、子ども達の発育や能力を「できる・できない」ととらえるのではなく、一人ひとりの子どもの気持ちを一番に受け止めて、その子に合った表現方法を見つけ、皆と楽しんで欲しいと願っています。園行事を、進級や小学校への準備として成果を出す場と指導してしまうと「できる・できない」という価値観で自分や友達を見てしまい、不安になるお子さんもいます。誰もが安心し、結果よりもプロセスを大切にしながら、自由な発想、表現を引き出したいと考えます。私達の主体的で応答的な保育です。

子どもは、そもそも生まれてきたことで既に社会の宝です。宝である子ども達が、どう自信や自己肯定感を育てていくのか、それは、「こども」として今を生きることだと思います。子どもたちの生きる権利、育つ権利です。当日は、緊張するかと思いますが、共に新しい自分へと切り拓いていってくれると信じています。「お亥の子さんを祝いましょう」の歌、一緒に歌ってくださいね。宜しくお願いします。

さて、クリスマスやお正月がやってきます。こどもたちにとって一年で一番嬉しい季節ですね。大掃除や初詣など生活する知恵や文化を体験させてあげてください。子どもはお手伝いが大好きです。ご家族でゆったりと暖かな時間が流れますように。

今年も運営へのご協力有難うございました。新年は、起きている戦争を止め、世界中が、対話と協調を！そして、子どものウェルビーイングがあふれる平和な年でありますように。写真はお披露目会です。